

# 主任コラム7月号

主任 澤井 良子

梅雨に入りジメジメしていたり湿度が上がったりと体調を崩しやすいですが、子ども達は元気に登園してくれています。私は毎月月末になると『今月はこのコラムで何を書こう』と各クラスを回って撮った写真や残しておいたメモのエピソードを振り返っています。意外とカメラがない時の方が子ども同士や保育士と子どものいい姿があったりします。1日として同じ日はなく、色んなことが起き大変なこともあります。子どもの成長を感じたり身近で見守れたり、共に笑って泣いて喜んで叱ったり…この仕事にやりがいを感じられるのだろうかと思えます。



先日の出来事です。年長児のA君が年少児のT君と将棋を棚からゲームコーナーの机へと運んでいましたが、どうやら見ているとT君が怒って将棋をA君から取ろうとしている様子。そしてA君がT君を覗き込むようにしながら話かけると、T君の表情が和らぎ2人は席へついて将棋を始めました。

いったいどんな話をして、T君の表情が変わって席に着いたのかをA君に聞いてみるとA君「T君が将棋をやろうとしたから、『年少さんには無理だよ』と言ったらT君が怒ってしまったから『一緒にやろう！やり方教えるね』って言って、一緒にやることにしたん」私「そうなん。T君が怒ってたのに2人で将棋始めたから、何をお話してくれたのかな？って見てたよ。

T君と一緒に将棋をしてくれてありがとう」

と伝えると、またA君はT君のもとへと戻って行きました。

このエピソードから、年少だから、年長だからという能力の差が子ども同士の中にはあったかもしれませんが、でもA君が言った言葉でT君が傷ついてしまい、怒ったことをA君自身が感じ、T君がやれる方法を考えて声を掛けてくれた事に、年齢を超えた子ども同士の相手の気持ちを考えることや、人間関係の育ちを体感することができたのではないかと思います。大人が入らなくても、子ども同士でのやりとりで成長していく場面が保育園生活の中にはたくさんあるのだと思います。また、異年齢だからこそ（見て・真似て・学ぶ）関係性がうまれてくるのだと思います。

それは人間関係に限らず、生活面でも何かを学ばせたい・出来るようになって欲しいと思った時（例えば、箸の使い方、コップの飲み方、靴やズボンの履き方など）大人が言葉で教え込むのではなく、できる子どもの傍にいて子どもは見て真似ていくようになります。視覚からの環境です。特に赤ちゃんは集団の中に入るほど、視覚からの学びは大きいと思います。



←ランチルームでの幼児クラスの様子を見ている2歳児

6月の子どもたち  
の様子

『これ、食べられる？』



重たいけど運べるよ（2歳児）



手を合わせて「いただきます」

お箸の持ち方も大切です



（年長児）



お茶碗の持ち方も完璧です

友達の姿を見ながら  
集団生活の中でいろんなこと  
を身に付けていきます。

遊びの中で・・・



←雨降り散歩に出かける前の  
人数確認（年長児）



←『ボタンやって』『いいよ』  
出来ない所は友達が助けて  
くれたよ（年少児）



←一緒に見よう！  
（1歳児）



←「先生、鉛筆削るの  
抑えててね」（年少児）

保育園生活の中では、たくさんの仲間や大人との中で多くのことを吸収していきます。  
1人1人が安心できる大人のまなざしと環境の保障がなければ、子どもの育つ力は発揮されません。  
子ども達にとって安心できる場となるように見守りながら、保育していきたいと思っています。